

鮎瀬卓郎 先生

長崎大学病院麻酔生体管理室 教授就任記念講演

「顎、顔面、口腔の疼痛発生メカニズムの解明と治療法」

#### ご略歴

略歴：昭和33年11月19日 札幌生まれ  
昭和52年 北海道立札幌南高校 卒業  
昭和59年 北海道大学歯学部歯学科 卒業  
昭和63年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科 修了  
昭和63年～平成2年 東京医科歯科大学 歯科麻酔学講座 助手  
平成3年 沖縄県重度心身障害者全身麻酔下歯科治療、麻酔担当医として派遣  
平成4年～平成7年 The Johns Hopkins School of Medicine でresearch fellow  
平成7年～ 長崎大学歯学部附属病院 歯科麻酔科 講師, 助教授  
平成24年9月 長崎大学歯学部附属病院 歯科麻酔科 教授  
所属学会：日本歯科麻酔学会（評議員、学術委員会、編集・査読委員）、  
日本麻酔学会（査読委員）、日本臨床麻酔学会、日本障害者歯科学会、  
日本睡眠学会、



#### 抄録

歯科で扱う痛みには、虫歯や歯周病など、歯に原因を有する痛みだけでなく、「口腔顎顔面痛」とよばれる、口や顎、顔面に生じる痛みがあります。

口腔顎顔面痛には抜歯や歯の神経の治療後や口腔外科的手術後に長く続く痛み（神経障害性疼痛）が生じたり、顎の筋肉や関節の痛み（顎関節症）、舌の痛み（舌痛症）、原因不明な歯の痛み（非定型歯痛）など、原因がよくわからない痛みが多数存在します。年齢や性別による痛みの認知の差や、気圧や気温による外的環境の痛み感覚への影響も報告されていますが、今の医療レベルでは痛みの原因を全て解明する事は難しく、はっきりとした評価方法も確立されていないが故に、その診断には専門的な知識が要求されます。

口腔顎顔面痛に有効な薬の中には、抗炎症薬の他、抗けいれん薬や抗うつ薬、麻薬などがあり、処方の際には、医科への依頼が必要な場合があります。また、身体的な異常が認められないにも関わらず、痛みを訴えられる患者様の中には、心理的・社会的要因が関与する症例（身体表現性障害）も数多く存在し、その症状として、口腔顎顔面領域に“慢性の痛み”として現れる場合があります。このような現状を踏まえて、最近では歯科のみならず、精神神経科をはじめとした医科と積極的に連携（リエゾン）して治療を進める必要性があります。

本講演では、顎、顔面、口腔の疼痛発生メカニズムの解明に関する最新の知見と、治療法に関する新しい取り組みをご紹介します。